

留学報告書

～もっと留学したい～

ノースカロライナ大学ウィルミントン校
外国語学部生（長期）

この10か月間アメリカで生活をしたことは私にとって3年間で成長できるほどの経験を積むことができた期間だったと留学から帰ってきて感じています。Coe 大学での研修が終わり、各自バラバラの留学先へ旅経つ中、University of North Carolina Wilmington (UNCW) へ向かったのは私一人でした。見知らぬ土地に当てもなく一人で向かう寂しさとやっと叶った長期留学が始まるワクワクとが混ざった不思議な感覚でした。そんな思いを抱きながらウィルミントン空港に到着しました。

何日か一時的な寮に宿泊した後に、本来の寮に移動しました。そこで最初に会ったのがオーストラリアから来た最初のルームメイトでした。私の選んだ寮が10人で一つのフロアを共同で使う仕様になっていて、私と二人のオーストラリア人、フィンランド人、そして六人のアメリカ人で生活することになりました。年齢層も豊かで19歳から27歳までの人が一緒に生活をしていました。私が相部屋を選んだ理由は、単純に身近に英語を使う人がいる方が英語を使う頻度が増えると考えたからです。その反面、部屋にいるときは相手の事を気遣うので、自分だけの時間、スペースが欲しいな。と思うときもありました。大学は広大な土地に建てられていて、寮から図書館までは歩くと10分以上かかりました。私の一つ上の先輩でUNCWへ留学した方が自転車やスケートボードがあると便利だと聞いていたので、この留学のために私は Penny という小さめのスケートボードを日本で購入して、練習、そしてアメリカまで持ってきました。学内には無料のレンタル自転車も設置されており、いかにキャンパスが広大なのか感じました。最初の内は地図を携帯していたのを覚えています。

私は寮で生活していたのですが、ホストファミリーを持つこともできます。こちらは金額が発生するわけではないので、私も申し込みましたが、私はとても良いホストファミリーを持たれたと思う程、気さくで心優しいホストの方たちにお世話になるときもありました。時々ホストファザーとマザーと一緒に食事に行ったり、ダウンタウンへ行ったりと楽しい時間を過ごすことができました。

ウィルミントンは一年を通して比較的暖かく、私がいた一年は雪が降りませんでした。ウィルミントンの街自体は日本のように山に囲まれているわけではないですが、自然が豊かで落ち着いた雰囲気のある街です。歴史あるダウンタウンやビーチが有名で、どちらも大学から車で10分程の場所にあります。ダウンタウンは川沿いに位置しており、川に沿って歩いたり、ビーチはとても美しいです。週末や夏の暑い日はビーチへ行く人をよく見かけます。

私は ESL のクラスではなく、レギュラーのクラスで授業を受けていました。自分の英語のレベルは他の日本から来てレギュラークラスを取っている子たちに比べると低い方だったのかなと思います。周りは普通の学生たちで毎日緊張しながら、そして先生や他の学生が何を言っているのか理解するところからのスタートでした。授業中の先生の指示が聞き取れない時は隣にいた学生に「今なんて言ったの？」と尋ねていました。そしてどの授業でも初回のクラスの後に教授の元へ行き、自己紹介と英語が分からなくて迷惑をかけるかもしれない。と前もって伝えておきました。オンライン上で行われるクラスも取っていて、仕組みが分からずに課題を出し忘れることもありました。

学校が始まって約 1 か月が経った頃、ノースカロライナ州に向かってフローレンスというハリケーンがやって来て、全学生が学校から非難を要求され、私は念のためルームメイトの一人と一緒に彼の実家のあるフロリダ州へ避難しました。アメリカに到着してまだ 1 か月程しか経っておらず、環境にも慣れ始めたときの出来事だったので、フロリダ州という異なる環境とホームステイで気を遣ってしまう日々が続き、ある日ホームシックあるいは、軽いうつ状態になってしまいました。湖の畔で 3 時間ほどぼーっと座り込んでしまったりする日もありました。ここでは自分の意見をはっきり伝える大切さを学びました。一方でフロリダ州まで行ったおかげで帰りは色々な州を周ってノースカロライナ州まで帰ることができました。

最初の学期では College Writing & Reading, 教育、アメリカ音楽、ジャズ、そして ESL のクラスを履修していました。College Writing & Reading のクラスでは大学でのエッセイの書き方や形式について学び、また本を読んでその内容について話し合いました。広告やウェブサイトの作り方も学ぶことができました。教育の授業はオンラインクラスで、インターネット上でディスカッションをしたり、課題が出たりするのを全て自分のペースで空いている時間に勉強ができました。アメリカ音楽では音楽の歴史、ジャズではジャズの歴史を主に勉強しました。またコンサートに参加して感想文を提出する課題もありました。ESL のクラスでは他の日本人留学生とドイツ人、イタリア人、中国人、韓国人と一緒にアメリカの文化、そして英語を勉強していました。出身国によって英語の発音の仕方やイントネーションが違って、面白い体験をしました。授業後、放課後は基本的に図書館に籠って、課題を延々とやっていました。

後期は二つの教育の授業と、言語学、心理学、体育、そして二つのバンドのクラスを履修していました。教育の授業では一つがノースカロライナ州の教育制度を主に学び、もう一つのクラスでは大学の近くにある小学校へ教育実習のような形で週に一度お邪魔していました。小学生相手とは言っても、彼らの英語を理解して、一緒に活動するのは大変でしたが、とても良い経験になりました。言語学の授業はオンラインでした。心理学は概要程度の内容でしたが、とても難しい講義でした。体育の授業ではマラソンをやっていました。最後の授業では実際にハーフマラソン（約 20 km）を走りました。バンドのクラスというのは、一つは UNCW の有名スポーツのバスケットボールの試合で応援団として演奏をするグル

ープでもう一つは日本でいう吹奏楽団のような組織で、一般の方も来るような演奏会に何回か出させてもらいました。どちらもやろうと思った理由は日本の大学で Jazz 研究会に所属しており、トランペットを演奏しているのですが、アメリカで学生たちと一緒にトランペットを演奏することが留学する上で達成したい目標の一つだったからです。

UNCW には本当に多くのクラブや学生団体があり、私はその中でも Japan クラブと Asia クラブというものに所属していました。これらのクラブにはアジア人の学生はもちろん、アジアや日本の文化や言語に興味のある学生が所属していて、友達もたくさんできました。また後期のみですが、毎週水曜日に UNCW の日本語の授業で使われる教材を作るお手伝いをしていました。UNCW にいる唯一の日本人教授の元で私は主にイラストを描いていました。自分の作ったもので学生たちが日本語を勉強すると考えると、とても光栄で嬉しかったです。なのでそういったクラブや活動に参加することもアメリカでの生活において大切だと思いました。休みの日は友達とご飯を作ったり、映画を見に行ったり、ビーチに行ったり、パーティーに行ったりと ON と OFF をうまくスイッチして有意義な時間を過ごしていました。

学校が長期休暇に入ると、冬休みにはニューヨーク、イースター休みにはマイアミ、そして 4 月には他の日本人留学生たちと一年間お疲れ様の意味も込めてワシントン D.C. へ、そして 5 月にはボストンへ旅行に行きました。元々旅行が好きで、特に美術館に行くのが好きなので、見たかった絵画が見られてとても嬉しかったです。

UNCW での留学が終わってからはニューヨークでインターンシップに参加しました。私は Amnet という旅行代理店でインターンをしたのですが、社員の方々がとても心優しく、またニューヨークで 3 週間生活したことはとても良い経験になりました。社会の基本的で大切な心構えや、英語を使って働くという事を肌で感じました。社長と一緒に食事に行ったり、他の社員の方とお昼ご飯を食べる中で、ニューヨークで働いている日本人の方々の考えや感じ方に触れて、一緒に仕事をする事ができて、三週間というとても短い間でしたが、またニューヨークへ行ったときは皆さんに元気な姿を見せたいと思っています。

この一年、アメリカで得たものは私の目標だったもの以上でした。そしてこのノースカロライナ大学ウィルミントン校に留学できて本当に良かったです。ここでしかできなかった事、出会うことができなかつた人、全てに感謝です。英語力はもちろん、アメリカ文化を肌で感じて、体験したことはこれからの人生に大きな影響を与えると確信しています。それもこの大学生の時期にこれだけの期間をアメリカで生活できたことがどれほど大きな事だったか。それもこれも家族の支援、学校のスタッフの方々、何より両親に感謝してこれからその恩を返していきたいです。もしもう一度留学に行く機会があれば是非行きたいです。まだまだ自分の英語力を上げたいですし、もっと世界を見てみたい。そんな思いを抱いて、どんなことにもチャレンジしていきたいです。